

奈良町の五感によるまちづくり ワークショップ報告

平成20年12月9日

横井 紘一

(社団法人奈良まちづくりセンター)

奈良町

奈良町は平城京の東部外京、世界歴史遺産の東大寺、興福寺、元興寺などの寺々に隣接し、京都と伊勢を結ぶ上街道を中心にして栄えた歴史的町並み。能や茶道の発祥の地として文化的DNAが見られる。





奈良まちづくりセンター1979年設立・会員160名

主な活動内容

(1)まちづくり推進事業

- **風景、景観を守り育てる運動**
JR奈良駅舎を考える会、音風景プロジェクトなど
- **ラーニングコミュニティ運動** 奈良町探検隊
- **大和まちづくり技術者ネットワーク**「まちづくり相談室」
- **まちづくり提案事業**ならまちHOPE計画など



(2)まちづくり交流事業

- ・奈良町物語館での市民交流
- ・大和まちづくりネットワーク
- ・アジア都市保全ネットワーク(ハノイ、シンガポール、タイなど)



チェンマイ・まちづくりへの支援



(3)まちづくり調査研究・研修事業

- ・奈良市「奈良町博物館都市構想調査」
- ・歴史的環境保全運動の国際ネットワーク化調査など
- ・自治体、教育関係、地域団体対象研修

奈良町の課題

- ・ 高齢化→独居高齢者の暮らし環境の悪化
- ・ 生活観光化→騒音・安全性
- ・ 景観悪化→奈良らしい町並み・景観保全へ



ヒューマンスケールな(人間らしい)町への回帰



本来、景観とは、人間のすべての感覚器(五感)で感じるもの

景観を五感で感じ評価し、

奈良の町を再生してみよう

「五感によるまちづくり」

奈良公園



J R奈良駅前の常夜燈



ワークショップ①「五感による町歩き」

景観感性工学の研究(2002)

一般市民参加公募制 (2004) 2回

学生によるもの(2007) ワークショップ開催

内容

視覚(色) 例=茶色、ねずみ色

視覚(形) 例=格子、むしこ窓

視覚(素材) 例=土壁、ブリキ

聴覚 例=車、小鳥

嗅覚 例=線香、花

触覚 例=アスファルト、石畳

五感別に景観を診る 五感調査シート記入



ワークショップ「五感による町歩き」対象地域



「五感による町歩き」結果

視覚(色)

・参道敷石などの鼠系
 町屋などの茶系
 奈良公園などの緑
 の3色によってほぼ構成されており
 高層で面積の大きいビルの白色や看板の赤などの
 近代人工色の突出がある

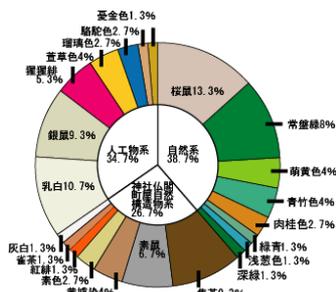


図1-1: 奈良町景観・視覚-色「面積の大きい色」



「五感による町歩き」結果

視覚(形)

- ・格子、町屋、むしこまど、木の形、鳥居の形、細い道、並木道
- ・結果＝奈良町の形は奈良公園の木の形、町屋や格子など依然として奈良らしさを保持している
- ・電線、電柱、看板などの異形ものをどう処理するか課題

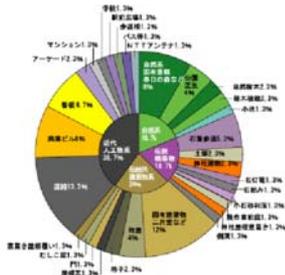


図2：奈良町景観・視覚⇒形「意識の大きい形」

「五感による町歩き」結果

視覚(素材)

- ・コンクリート、瓦、漆喰、石、レンガ、ブリキ、タイル
- ・モルタル、木材、土壁、鉄材
- ・結果＝木、石、土壁、漆喰などに対し
- ・道路舗装コンクリート、鉄材の近代的素材が多い



嗅覚

- ・好感 お寺の線香、木々、コーヒー
- ・中間 雨上がりの匂い、鹿の糞、土、草、もち、奈良漬
- ・嫌悪感 排気ガス
- ・嗅覚 なしが多い。町、特に住宅街に香りが感じられない。

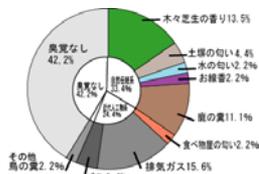
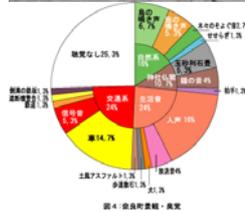


図5：奈良町景観・嗅覚

「五感による町歩き」結果

聴覚

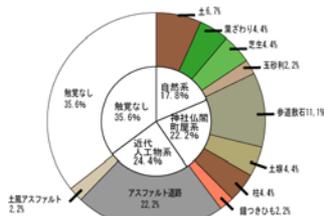
- ・**好感** せせらぎの音、雨音、小鳥、格子開け閉め、ピアノ、
 - ・**中間** 話し声、人の靴の足音、焼き芋屋の音、カラスちんどんや、もちつき、自販機
 - ・**嫌悪感** 排気音、広告放送
- 結果＝話し声が一番多い。
奈良公園や三条通、奈良町での観光客の話し声に対して住宅街での近隣の声が少ない、特に**子供の声**がまったくしない。
水路や水の流れ音に関心がある一方でちんどんや、もちつきなどの賑わい性を望む声も多い。



「五感による町歩き」結果

触覚

- ・アスファルト、石畳、芝生、土、木、土壁、のれん
 - ・起伏、道路わきの傾斜
 - ・鹿の糞
- 結果＝アスファルトや敷石しか感じない、奈良公園の土や芝生を除いて町に触覚なし。



五感による町歩き参加者の まちづくりへの提言

なららしいゆとり
～こどもたちの声が聞こえるまちづくり～

奈良らしい景観とは、
豊かな自然と歴史的建造物と人の目線に立った
ヒューマンスケールなものではないか
車の騒音、排気ガスから、庭木の香る町、特に子供たちの
声が聞こえるまちづくりをすすめたい。

ワークショップ②音風景プロジェクト

1: 音によるまちづくり－奈良町の音の景観デザインに関する研究
(2004年 サントリー財団助成)

2: 五感で感じるまち－音の庭づくり
(2005年 JT助成)

目的

音風景とは聞こえてくる情報により
人間のところに像を結ぶ心象風景
住民や訪れた人たちが、音に気づき、音に愛着を感じ
音風景を再生できるまちづくりを目指す

ワークショップ②音風景プロジェクト 1:音によるまちづくりー奈良町の音の景観デザインに関する研究

音のアンケート調査

対象:元興寺周辺地域6町住民 有効回答数132

結果:比較的好んでいる音=鳥の声、寺の鐘、
人の声

嫌いであると思われる音=自動車、バイク

特記:興福寺南円堂の鐘の音

近い場所より、最も遠い(南東約1.5km)

高畑町が回答比率が高かった。

→鐘は毎日定時に聞こえてくる音、

南円堂への宗教心が音の記憶を
高めている。

音風景はこころの風景であるとの実証？



ワークショップ②音風景プロジェクト 2:五感で感じるまちー音の庭づくり

場所:奈良町物語館裏

参加者:一般公募

内容:音の庭づくり

(庭の再生、庭樹や花を植える

井戸の再生、サウンドWALK、かまどづくりを
次の春への支度 1年間体験)

作業中に“音聞きの時間”(約5分間)を設定



ワークショップ②音風景プロジェクト 2:五感で感じるまち一音の庭づくり

まとめ:音聞きの時間では作業毎に
様々な音が確認された。

「聞く」という行為だけを切り離すの
ではなく、音は常に形、におい、感触、
などと共にあることが理解できた。
聞くことだけではなく、現代人が
失いつつある感覚機能を取り戻す
試みが重要。



「五感による町歩き」と「音風景プロジェクト」まとめ

奈良町の現状

- ・ 伝統的家屋、寺院などが残るものの近代建造物の色や形が伸長
- ・ 車の騒音、排気ガスが全地域に侵入
- ・ 香りのない町、土など触覚が失われている

奈良町のこれからの取組み

- ・ 奈良らしい独自の五感を伸長し、復活させること
(せせらぎの復活、奈良町寺院の鐘つき、さえずりポケットパークなど)
- ・ 五感で町を知る、学ぶ、創る 五感受容の育成啓蒙
(奈良町八景選定、五感による景観学校など)

おわりに

奈良町格子の家

格子越しに子供が遊んでいる声が聞こえる
(安心安全)

ご近所に声をかける
(裏庭コミュニケーション)

四季を感じる
木や土壁の温かさに包まれている
(自然の恵みと共生)

風が通る、水をまいて涼しく
(省エネ)

町屋の暮らし方から
学び、生かす、創る
まだまだお手本はいっぱい！



おわり